

2017年度（後期）

市民への啓発活動として「市民の集い開催への助成」

指定内容：「看取り」での経験を語る会

市民講座「人生の最期をどこで？どのように？」～「良い人生だった」と終えるために～

完全報告書

2018年8月11日（山の日）開催

申請者： 岡橋義弘

所属機関：たつなみ薬局

提出年月日：2018年9月3日

はじめに

薬剤師として「在宅の看取り」患者さんに関わることもあるなかで、市民への啓発活動に力を入れたいと以前から考えていました。これまで薬剤師としてなんとか多職種連携セミナーでの講師を依頼され、医療・介護の方々との交流を深めてまいりました。そのなかで、ある訪問看護師から「看取りのセミナーへの機会は少なからずある。しかし、参加者が市民に偏ったり、反対に医療や介護の専門職だけだったりすることに少し違和感を覚える」という意見を聞きました。

また、今回の企画に賛同してくださった辻医師は、

「死」というものが誰にでも訪れ避けられないものであるにもかかわらず、どのように人生の幕を引くかについては、語られることが避けられてきていました。「人生の幕引き」は、個々人によって異なるのでしょうか。

急性期医療に従事する医療者は、常に患者の「死」に向き合っているにも関わらず、人間としての「死」について、その人の人生を振り返って語ることは少ないとおもいます。また、患者をどのように看取るか以前に、自らの「死」にも十分に考えているとは言えないところもあるのではないのでしょうか。

と話してくれました。

そうしたなかで、専門職と一般市民が「どのような最期を迎えたいか」を考える市民講座に対する助成があることを知りました。これまで交流があった長尾和宏医師、辻文生医師に協力を求めたところ「よりやろう！」ということで、市民講座「人生の最期をどこで？どのように？」～「良い人生だった」と終えるために～を開催したのでご報告させていただきます。

開催概要

日時:2018年8月11日(山の日)

プログラム (別紙)

当日の参加者:240名 半数以上が市民からの参加者、医療・福祉・行政からの参加があった。

開催内容

大阪府民を対象に、終末期医療をテーマにして医療や看護、福祉職だけが集まるのではない企画を目指しました。あくまで市民への啓発活動として、専門職を交えて現実的な問題をリアルにとらえられるように工夫しました。

この市民講座では、「看取り」とはどうあるべきなのかを、市民の参加者と考えられるような内容にしました。

多数の著書を執筆されている長尾和宏先生のリアルな経験を踏まえたご講演を1部に、2部では長尾先生と医療介護分野の方々とのパネルディスカッションとしました。

第1部基調講演 「平穏死できない現実」

長尾和宏氏 長尾クリニック院長

日本尊厳死協会副理事

長尾先生は、これまでの看取りの経験を巧みなトークと映像用いて、日本における在宅医療はどうあるべきかを問いかけてくださいました。みんなが知っている有名人や身近な人の人生の最後に触れ、わかりやすく、ユーモアをくわえてお話ししてくださいました。

第2部パネルディスカッション 「幸せに人生を送るための課題と解決策」

辻文生氏 吹田市民病院 呼吸器・アレルギー内

日本尊厳死協会関西支部おおさか会長

坂本真由美氏 大阪信愛学院短期大学

大矢亮氏 耳原総合病院 総合診療科部長

豊田百合子氏 大阪府看護協会の元会長

小出大輔氏 NPO法人いばらき 主任介護支援専門員・社会福祉

第2部のパネルディスカッションでは、急性期病院の病棟の医師である辻文生医師が総合司会の坂本氏と、誤嚥性肺炎の事例をもとにパネルを進めてくださいました。

救急医医療を担当し自らも在宅診療に携わっている大矢亮医師からは、救急搬入の現状や誤嚥性肺炎のデータも踏まえたお話が聞けました。そのなかで、「看取り」に関わる在宅の大先輩である長尾和宏医師も加わり、救急医療の中で日々直面する医師としての悩み、かかりつけ医との連携のありかたにも話が広がりました。

また、大阪府看護協会の元会長である豊田百合子氏からは、若いころの患者さんとの思いでも織り交ぜながら、看護師として思いや経験を市民に分かりやすく話してくださいました。

社会福祉士で介護支援専門員の小出大輔氏からは、ひとり暮らしの方々の人生の最後にどう寄り添ってきたか、その中で看取りの場所が問題ではなく、その支援の在り方についても語ってくれました。会場から高校生の飛び入り参加もありました。

受付から開催までの間は、ボランティアグループが音楽と歌で「看取り」という重いテーマを和らげることをはかってくれました。

患者会では市民講座終了後に、患者会主催の交流会も開催されました。

参加者の感想

参加者の感想としては、自分や家族の人生の延長線上にある最期について「考える機会となった」「もっと先生たちの話を聞きたかった」などが寄せられました。また、開催翌日には、「もう少し話が聞きたい」というお電話も頂きました。

広報と集客

案内チラシを作成して広報活動を行った。また、医療機関や介護事業所を回り、開催主旨

を説明し参加を呼び掛けました。郵送や手渡しだけでなく、**Facebook** や講師のブログへの掲載や、ご協力いただける機関には、事業所案内の折にチラシの折り込みをして頂きました。

予定より申込者が拡大する中で、一般市民が多数参加を断らないでお受けできるようにしたいと、第二会場、第三会場を準備してお受けすることとしました。第二会場、第三会場では、中継設定会場を準備しました。しかし、締め切り後も多数のお問い合わせがありました。このことは、市民の関心の大きさを示していると考えます。

開催を終えての感想

2025年を目の前にして、地域包括ケアシステムを構築していく上で、よりリアルな現実の中で話し合うことが大切であると常々感じていました。「看取り」を広く捉え、医療者自身が自らの問題としての「死」を多職種で考え、人生における生と死についての多様性を、多職種で共有する場としたいという思いがありました。

基調講演やパネルディスカッションが、市民の方々にわかりやすい内容でお伝えできる工夫をしてくださいました。そのことで、人生における生と死についての価値観の多様性を市民と多職種で共有する場とすることができるひとつの取り組みになったと思います。

今後の課題

今回の市民講座で終わるのではなく、行政や医療者や介護に携わる多職種が、内容を深められる場作り、市民とともに考えられる繰り返し開催していくことが求められると考えています。そのためにも、薬剤師としての現場からの発信は、自身の課題であると思います。

謝辞

最後に、よりリアルな看取りの現実をお伝えしたいと、看取りの経験をお話することに協力頂いた患者ご家族の方々に心から感謝申し上げます。また、日常業務がお忙しいところ度重なる打ち合わせに応じてくださったみなさま、開催の意図を理解し、快く運営に関わってくださったみなさまに深く感謝申し上げます。こうした医療や介護の現場と市民をつなげる企画にできたのも、勇美記念財団の市民講座への助成があったことによります。開催にあたって「公益財団法人 勇美記念財団」の助成に心から感謝申し上げます。

2017年度（後期）

市民への啓発活動として「市民の集い開催への助成」公益財団法人 勇美記念財団」の助成を受けて開催することができました。



受付の様子



第一会場の様子



メイン会場と第二、第三会場もいっばいに



長尾先生の分かりやすいお話し



事例をもとにパネルディスカッションもリアルな看取りの話になりました

市民公開講座 参加無料(事前予約要)

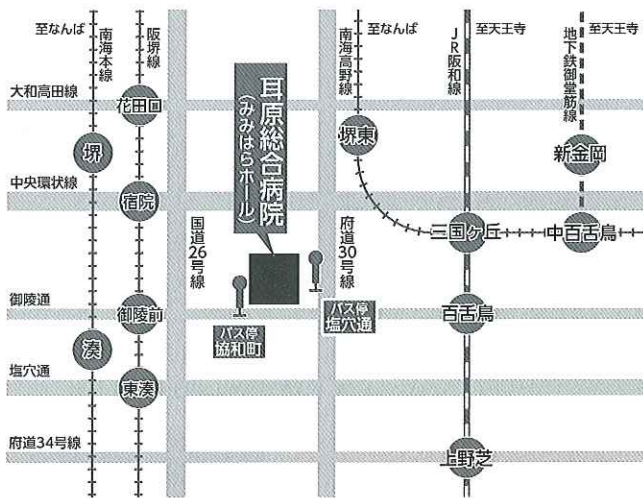
人生の最期をどこで? どのように?

~「良い人生だった」と終えるために~

2018年8月11日(土・祝日)

14:00~(受付13:30~)

会場: 耳原総合病院 (みみはらホール)



南海高野線「堺東」駅から

バスで約10分、タクシーで約5分

バス 南海バス9番のりば:「塩穴通」下車 徒歩約4分
南海バス南循環(左回り):「協和町」下車 徒歩約2分

JR阪和線「上野芝」駅から

バスで約10分

バス 南海バス堺東行き:「塩穴通」下車 徒歩約4分

南海高野線「堺東」駅から

塩穴通を東(くすり・化粧品看板側)へ 徒歩約15分

※耳原病院駐車場・近隣駐車場には限りがありますので、なるべく乗り合わせでの来場、またはバス・タクシー等の公共交通機関をご利用ください。

8月11日 参加希望

ふりがな 氏名	_____		
住所	〒	_____	
電話番号 FAX番号	TEL.	_____	FAX. _____
mail	_____	@	_____
勤務先 又は所属	_____		
職業/ ご所属	<input type="checkbox"/> 一般 (<input type="checkbox"/> 日本尊厳死協会会員・ <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 医師・ <input type="checkbox"/> 薬剤師(病院)・ <input type="checkbox"/> 薬剤師(調剤薬局)・ <input type="checkbox"/> 看護師・ <input type="checkbox"/> 訪問看護師・ <input type="checkbox"/> ケアマネ・ <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 理学療法士・ <input type="checkbox"/> 作業療法士・ <input type="checkbox"/> 言語聴覚士・ <input type="checkbox"/> ヘルパー・ <input type="checkbox"/> その他 (_____)		
ご質問 ご要望	_____ _____ _____		

*資料準備の都合上FAXでの申込みにご協力ください。 *個人情報、ワークショップ企画に使用します。研修会以外の目的には使用しません。

電話・メールでのお問合せは平日のみ承ります

社会医療法人 同仁会 耳原総合病院

fax. **072-244-3577**

品質管理部(中田・天野)在宅推進担当 mail: nakata-n@mimihara.or.jp mail: amano-t@mimihara.or.jp tel. 072-241-0501